

# 金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、静岡県藤枝市立西益津中学校を今年3月に定年退職された内藤博美先生が、技術・家庭科の「身近な消費生活と環境」に関して取り組んだ、消費生活と環境を考える教育の実践をご紹介します。

## 生徒を「環境に配慮した センスある消費者」に

中学校の技術・家庭科のうち、家庭分野における学習内容はA「家族・家庭と子どもの成長」、B「食生活と自立」、C「衣生活・住生活と自立」、D「身近な消費生活と環境」で構成されています。

平成25年度に静岡県で開かれた技術・家庭科教員の実践研究発表の場である「東海・北陸地区中学校技術・家庭科研究大会」において、静岡県藤枝市の家庭科教員チームには、このうち「身近な消費生活と環境」についての実践例の発表が割り当てられました。

「当時、『身近な消費生活と環境』については過去の実践例があまりありませんでした。それなら、自分た



ちでカリキュラムを作ろうということになりました」。

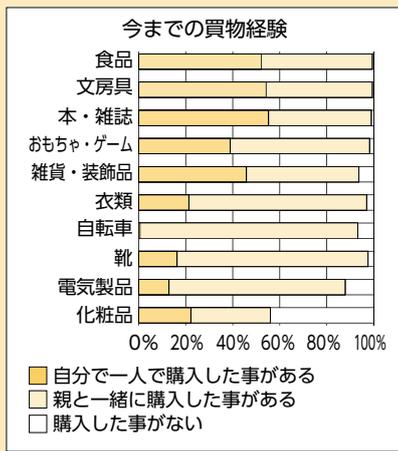
藤枝市内の家庭科教員9名のチームリーダーを務めたのが内藤先生です。

内藤先生たちのチームは、まず、生徒が消費生活や環境に関して、日頃どのくらい関心を持っているかを

把握することにしました。市内10校の中学2年生546人を対象に「消費生活実態アンケート」を行った結果、文房具や食品、本・雑誌などは生徒1人で購入した経験はあるものの、電気製品や自転車、衣類など高額なものは保護者と購入している実

静岡県  
元藤枝市立西益津中学校教諭  
内藤博美氏

【図表1】消費生活実態アンケート



こうして作られたのが、9時間のカリキュラムです（図表2）。このカリキュラムには、幾つかの工夫が施されています。その一つが、生徒が問題意識をもって授業に取り組めるよう、授業で取り扱う題材は、授業と日常生活の距離を縮めるものを選んだことです。1時間目の「消費行動を振り返ろう」は、生徒が自分の消費行動の問題点をみつけ、計画的にものを購入することの必要性を理解することを狙いとした内容です。ここでは生徒に自分のペンケー

**身近な「自転車」を題材に  
ストーリー性のある授業展開**

態を掴みます（図表1）。また、環境面では、節約、ゴミの分別などへの意識は持っているものの、環境に配慮した商品を購入する、ものを大切にするといった、実際の行動につながっていない点が課題として浮かび上がりました。これらを踏まえ、この授業の目標は生徒を「環境に配慮したセンスある消費者に育てる」とに設定しました。

スの中身について、各々の必要度と満足度を3段階評価させながら自己の消費行動を振り返らせました。さらに、生徒の問題意識を持続させるため、ストーリー性のある授業展開を考えました。ここで着目したのが、自転車です。「藤枝市内の中学生は通学や部活動での自転車利用が認められているため、生徒の自転車所有率はほぼ100%。生徒に身近な題材でもあります。さらに自転車は高額なので生徒だけの判断では買えず、品質、価格面、安全面を保護者と相談しながらじっくり考えて購入します。それが『ものを購入するときの姿勢』から『廃棄の仕方』にまでかわわり、ストーリー性のある授業展開ができると考えました。具体的には、「自転車を自分の不注意で盗まれてしまったので、おこぼかいで買わなければいけない」と想定のもと、「自転車を購入しよう（2時間目）」↓「支払い方法を考えよう（3時間目）」↓「消費者トラブルを考えよう（4時間目）」↓「自転車が壊れたらどうするか？（5時間目）」↓「自転車の行方はどうなるのだろう？（6時間目）」とストーリーを作り上げました。

これらの授業の中では、さらに、実践的・体験的な学習活動を充実させるため、シミュレーション活動やロールプレイング活動を取り入れました。「自転車を購入しよう」では、まず、専門店やホームセンター等の店舗で購入する場合とインターネットの通信販売で購入する場合についてシミュレーションを行い、双方の特徴（メリット・デメリット）を理解します。その上で、自分にとって必要な情報を収集しながら、自転車の品質・機能、アフターサービスなどの視点から適切な方法で購入することの大切さを理解する内容です。また、「消費者トラブルを考えよう」では、自転車を景品としたアポイントメントセールスを題材に、ロールプレイを通して、悪質商法に引っかかってしまう消費者の気持ちや、だます側の工夫を探ることで、消費者トラブルに遭わないために気を付けること、万一トラブルに巻き込まれてしまった場合の対処法を学びました。

**循環型社会は  
一人ひとりの行動から**

さて、自転車をめぐるストーリーから環境問題を考えていくための橋渡しとして設定したのが、「自転車の行方はどうなるのだろう？」です。「センスのある消費者」とは、ただ高額なモノを購入したり、新しいものをいち早く購入する消費者ではあ

【図表2】カリキュラム

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
<p><b>環境に配慮したセンスある消費者をめざそう</b></p> <p>・身近なペンケースから自分の消費行動に関心を持ち、自転車の購入、支払い、廃棄や消費者トラブルまでの具体的事例を通して、消費生活と社会との関わりを考え、環境に配慮した生活を実践しようとしている</p> <p>・物資やサービスの消費や環境に配慮した生活の良さを知ろうとしている (言語活動・行動観察・ワークシート)</p> <p><b>《第4時間目》消費者トラブルを考えよう</b> 悪質商法の被害にあわないために気を付けたらよいことと、被害にあったときの対処方法を自分なりに工夫している (ワークシート・ロールプレイング・行動観察)</p> <p><b>《第6時間目》自転車の行方はどうなるのだろう</b> 自分の消費行動が環境に大きく関係していることに気付き、環境への負荷をできるだけ与えない生活を工夫している (ワークシート)</p> <p><b>《第8時間目》グリーン・コンシューマーになろう</b> 自分や家族の消費生活を振り返り、環境への影響について考え、環境に配慮した商品の選択、購入を工夫している (ワークシート・言語活動)</p> <p><b>《第9時間目》エコライフ実践計画を立てよう</b> 自分や家族の消費を点検し、環境に配慮した生活の仕方を工夫している (実践計画書・行動観察)</p>	<p><b>《第2時間目》自転車を購入しよう</b> 自転車購入の疑似体験を通して、商品購入に必要な情報を収集し、整理することができる (ワークシート・行動観察)</p> <p><b>《第3時間目》支払い方法を考えよう</b> 物資やサービスの支払いに対して様々な支払い方法があることに気付き、それぞれの支払い方法の特徴を理解している (ワークシート・ペーパーテスト)</p> <p><b>《第5時間目》自転車が壊れたらどうするか？</b> 商品トラブルについての事実を販売店や企業に伝えることの意義、消費者の権利と責任について理解している (ワークシート・ペーパーテスト)</p> <p><b>《第7時間目》環境マークを知ろう</b> 環境マークの意味を知り、マークをつける利点を考え、環境に配慮した商品を選択、購入する必要性を理解している (ワークシート・ペーパーテスト)</p>	<p><b>《第1時間目》消費行動を振り返ろう</b> ものの流れを確認し、身近なペンケースの中身をもとに自分の消費行動の問題点を見つけ、計画的にものを購入することの必要性を理解している (ワークシート・言語活動)</p> <p><b>《第2時間目》自転車を購入しよう</b> 自転車購入の具体事例から店舗販売と無店舗販売の特徴を知り、必要に応じて適切な方法で購入することの大切さを理解している (ワークシート・ペーパーテスト)</p>	<p><b>環境配慮型商品について知り、実際にそうした商品の選択、購入を工夫していくことが大切だと伝えました。</b></p> <p>りません。自分の使い道に合ったものを選び、大切に扱いながら、環境にできるだけ負荷を与えない生活をしていくということです。そのためには、環境配慮型商品について知り、実際にそうした商品の選択、購入を工夫していくことが大切だと伝えました。</p> <p>環境配慮製品を選ぶときの指標のひとつとなるのが、身近にあるエコマーク。省資源や省エネ、リサイクルのしやすさなど、生産から廃棄まで、ライフサイクル全体を通して環境負荷が少ないと認められた商品につけられるマークです。環境配慮型商品</p>
<b>高めたい「リテラシー」</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的にものを購入する必要性の理解【第1時間目】</li> <li>・消費者として様々な情報を収集、整理する能力【第2時間目】</li> <li>・必要に応じた適切な購入方法の理解【第2時間目】</li> <li>・商品や場に応じた様々な支払い方法の理解【第3時間目】</li> <li>・消費者トラブルに巻き込まれない工夫やトラブルの対処法を考える能力【第4時間目】</li> <li>・消費者の権利と責任についての理解【第5時間目】</li> <li>・消費生活が環境に与える影響について知り、環境をよりよくするため工夫を考える能力【第6時間目】</li> <li>・環境マークについての理解【第7時間目】</li> <li>・環境に配慮した商品の選択・購入の工夫【第8時間目】</li> <li>・環境や資源に配慮した生活の仕方の工夫【第9時間目】</li> </ul>			
<b>題材を通して育てたい「ものを見る目」</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活の仕方を見直し、自分や家族の消費の在り方や環境への配慮ができる実践的な態度</li> <li>・自分や家族の消費や環境への配慮を通して、人として心豊かで快適な生活を営もうとする実践的な態度</li> </ul>			



気づいたことが、実生活に結びつく教育です。生徒同士で意見交換したり、ワークシートを使ってまとめさせることで、生徒自身が気づき、理解を定着させることができたのではないのでしょうか。そして、総仕上げとして、生徒自身に『エコライフ計画』を立てさせ、夏休みに実践してもらいました。生徒たちは家族を巻き込んで取り組んだようです」。

夏休み後に行ったアンケートでは、実際に環境に配慮した行動が増えたことが窺え、保護者からも「節電の意識が高まった」、「今後もこの姿勢を家族で継続していきたい」などという声が多く寄せられました。

### 家庭科は実生活に 生きる学習

今回の実践で内藤先生が最も重要視していたことのひとつが、「消費者の権利と責任」を取り扱う5時間目の授業です。

購入した自転車がたびたび故障する不良品だった場合どうするかという課題に対し、最初は「そのままにする」と答えた生徒が半数を占めました。しかし、「そのままにしない」

とする生徒からは、販売店や製造元に連絡するという意見が出ます。そこから、「問題が企業に届かなければ、また同じトラブルが起きてしまう」、「自分だけではなくみんなが困る。おかしいことは指摘していこう」という理解に発展。消費者には守られる権利がある反面、行動する責任もあるという「消費者の権利と責任」に、生徒たちも真剣に向き合いました。

「非常に難しい授業でしたが、消費者にとって権利と責任は両輪であることを理解してもらうことが狙いでした。黙っていても世の中は良くなり、消費者は弱い立場になってしまいがちです。生徒たちが『消費者の声が、企業がより良い商品を作ることにつながる』という気づきを得たのはとてもうれしい結果でしたし、私自身、今まで授業で取り上げたことのない面白いテーマとして、手応えも感じました」。

授業後に実際、悪質商品を購入してしまった生徒がきちんと企業にその由を伝える行動をしたといいます。

内藤先生の長い教師経験の中でも、学習指導要領で「身近な消費生活と環境」に関する内容が大きくなると占めるようになってきたのは最

近のことだそうです。

「今回の実践を通じ、例えばものを買うとき、現金以外の支払い方法に対する知識が乏しく、クレジットカード、キャッシュカード、ポイントカードの区別もきちんとできていない生徒の実態を知ることができました。生徒たちの将来にとって、消費者教育、金融教育を実生活に結びつけていく必要性は大きいでしょうね」。

内藤先生たちは、この実践後も集まって改善点を話し合い、研究を継続し、次年度以降の取り組みにも活かしています。

「ただ、生徒数の減少に伴い家庭科教員の人数が減り、他教科の教員が家庭科を担当するケースが増えてきました。私は今年定年退職しましたが、藤枝市より家庭科担当教諭を支援するスーパーティーチャアの委嘱を受けたため、今後も『家庭科は生活の身近なことだから課題を発見し、言葉だけでなく具体的なものを題材に学んでいく学習』だと、次世代に伝えていくつもりです」。

内藤先生のメッセージには、家庭科教育が「生きる力を育む教育」として広がってほしいという強い思いが込められています。

## 金融教育の現場レポート

# 『環境に配慮したセンスある消費者をめざそう』 ～自転車を題材とした授業実践～

静岡県  
元藤枝市立西益津中学校教諭 内藤博美氏